

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

外国語活動・外国語 小学校

AI時代も人と伝え合う力を、段階を追って育てる英語へ

10秒でいうと　外国語活動と外国語科の形は維持。読む・書くの段階を細かく示し、語順の違いに気付かせる

3・4年の外国語活動と5・6年の外国語科という今の形は続く見込みです。そのうえで、つまずきの多い「読むこと」「書くこと」を、段階を追って丁寧に育てる方向です。学習は、考えを伝え合う「コミュニケーション活動」と、それを支える活動の2つで整理されます。中学校の文法につなげるため、日本語と英語の語順の違いに気付かせることも重視されます。

1 「読む・書く」は音声に慣れてから段階的に

一文を書き写す問題の正答率に学校間で差があるなど、「書くこと」に課題があるとされました。「読むこと」も、先生が指導の難しさを感じている領域です。そこで、外国語活動の音声での慣れ親しみから、読む・書くを含む外国語科へ、なめらかにつなぐ指導を示す方向です。 P277 P281

授業では たとえば、歌やチャンツで十分に聞いた語句を、絵と文字で見比べてから書き写す、という順番で進めることが考えられます。

2 日本語と英語の「語順の違い」に気付かせる

中学校の文法指導につなげるため、外国語科では、日本語と英語の語順の違い（文の組み立て）に気付かせることを示す方向です。音と文字の関係に慣れ、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりできるようにすることも挙げられています。 P281 資料編(3)P19(外⑲)

授業では たとえば「I like soccer.」と「わたしはサッカーが好き」を並べます。言葉の順番の違いを子供が見つける短い時間が考えられます。

3 「コミュニケーション活動」と「支える活動」

学習は、考えを伝え合う「コミュニケーション活動」と、語句や表現に慣れるなど「それを支える活動」の2つに整理されます。2つを行き来しながら、知識と、それを使う力を一緒に育てる考え方です。「練習」という言葉は本文では使わない方向です。 P279 P284

授業では たとえば、好きな物を尋ね合う活動の前に、必要な表現を聞いて慣れる短い活動を入れ、また伝え合いに戻る流れが考えられます。

4 外国語活動の教材と、学年ごとの目標の扱い

国の外国語活動の教材には、伝え合う目的や場面を作りにくい単元があると指摘されています。より身近で楽しく、5・6年につながる形に見直す方向です。また、学年ごとの目標を各学校が必ず作るきまりはなくし、必要なときに任意で作る位置付けとされています。 P280 資料編(3)P17(外⑰) 資料編(3)P19(外⑲)

授業では たとえば学年会で、各単元に「だれに・何のために伝えるか」があるかを確かめます。足りない単元に相手や場面を加えることが考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 外国語活動・外国語科の枠組みは続く P276 資料編(3)P1(外①)
- 外国語活動の活動は「聞く・話す」で 資料編(3)P33(外㉝) 資料編(3)P36(外㊱)
- 外国語科では「音声で十分に慣れ親しんでから」読む・書く 資料編(3)P32(外㉜) 資料編(3)P35(外㉟)
- 「読むこと」「書くこと」の段階を細かく示す P277 資料編(3)P21(外㉑) 資料編(3)P43(外㊸)
- 文字の扱いを丁寧に（外国語活動でも） 資料編(3)P17(外⑰) 資料編(3)P42(外㊷)
- Let's Try!を見直す 資料編(3)P17(外⑰)
- 語順の違いへの気付きで中学校へつなぐ P281 資料編(3)P19(外⑲) 資料編(3)P43(外㊸)
- 話題を学年相当で段階的に 資料編(3)P20(外⑳) 資料編(3)P42(外㊷) 資料編(3)P43(外㊸)

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。